

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている やや良く なっている	乗用車販売店 (店長)	来客数の動き	・新商品、新エコカー補助金の話題で、土日はもちろん平日の来客数も増加している。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・年明け後、徐々に来客数が昨年並みに戻ってきている。
		コンビニ(地域 ブロック長)	販売量の動き	・弁当、麺、デザート、生鮮品の動きが好調であり、昼食ニーズが引き続きある。
		乗用車販売店 (統括)	販売量の動き	・12月よりエコカー補助金が復活する見込みで、販売量は軽自動車を中心に前年比110%と増加している。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・エコカー補助金復活見通しをアピールしている。
		乗用車販売店 (副店長)	来客数の動き	・新年を迎え初売り商戦と新型車効果の影響で良い状況である。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・客単価が上昇している。
		その他専門店 [和菓子](経 営者)	来客数の動き	・大河ドラマの影響が大きく、良い状況となっている。
		観光型ホテル (支配人)	販売量の動き	・宴会部門の売上は伸びていないものの、宿泊、飲料部門は堅調に推移している。この時期恒例の地域上げでのランチフェアも年々規模が広がっており、売上、来客数共に増加している。
		通信会社(企画 担当)	お客様の様子	・東日本大震災の影響も少しずつ薄れ、活発とは言えないまでも上向きの行動になっている。
		テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・冬季閑散期であるが、季節の花に関する行事開催により観光目的の来園者が前年比3割増となっている。節約の傾向はうかがえるものの、消費者は観光など目的がはっきりした支出をいとわなくなっている。
住宅販売会社 (経理担当)	お客様の様子	・年明けから客の問い合わせが増えてきている。また、消費税率の引上げ議論に伴い、住宅購入検討者が早めに動いている。		
変わらない	変わらない	商店街(理事)	お客様の様子	・昨年末近隣に大型商業施設がオープンしたため、人はかなり動いている。ただ客は目的とする商品があるわけではなく、安価な品物にこだわって買物をしている。景気は良くなったわけではないが、安価な品物があれば財布のひもを緩めている。若干意識に変化はあるものの、まだ景気は良くないというイメージを皆持っている。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・従来とあまり変わっておらず、来客数の多い日少ない日の変動はあるが、トータルで見ると変化はない。
		一般小売店[酒 店](経営者)	お客様の様子	・厳しい寒さの影響で、人の動きが悪い日もあったが、景況感に変わりはなく例年通りの状況である。
		百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・催事とセールの日程を重ねたが、客の滞在時間が短く、福袋に関しては中身すべてが必要でない購入していない。
		百貨店(販売促 進担当)	お客様の様子	・冬セールは再値下げと同時に動き出しているが、まとめ買いは少なく購買単価は低下している。また、初売りの福袋も従来であれば完売となるブランド商品が残る状況となっており、客の慎重な購買姿勢がうかがえる。
		百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・月を通してミセス衣料、婦人雑貨が好調で、比較的客単価も安定してきており、前年並みの売上が見込まれる。
		百貨店(購買担 当)	お客様の様子	・1月前半は初売りが順調で、福袋、クリアランス等の売上が伸びている。また、ボーナスの影響もあり、特に宝飾関係やプラタポルテ等の高額品の動きが良くなっている。後半に開催した食に関する物産展等での売上も順調で、高額の食品関係の動きもある。
		百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・美術品は売れているが、100万円を超える商品は売れず厳しい状況が続いている。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・販売量が横ばいで客単価も全く変わらない状況である。
		スーパー(店 長)	販売量の動き	・今月は販売点数が前年比98%、来客数が99%となっており、3か月前の状況と変わらない。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・来客数はほぼ横ばいであり、さほど変化がみられない。
スーパー(店 長)	単価の動き	・商品単価は衣料、住宅余暇、食品ともに低下傾向であるが、購入点数が微増傾向にあるため3か月前と比べて変化はない。		

スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・単価下落の影響はあるものの、販売量が若干昨年を上回っており、金額ベースでは前年並みとなっている。	
スーパー（販売担当）	単価の動き	・販売点数が若干増加傾向にあるが、内容はセール処分品に集中し、客単価が低下していることから、景気については良くも悪くもなっていない状況である。	
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・販売量は前年並みの状況が続いており景気は変わらない。	
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・店の前の歩道の拡幅工事のため、駐車場に車が入れない影響で来客数が減少しているが、客単価に変化はない。	
その他専門店 〔ファッション雑貨〕（従業員）	販売量の動き	・来客数、販売量は横ばいで推移し、客単価も以前と変わらない状況である。また、高額品は低迷している。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末の家族連れ客の状況は3か月前と変わらず、予約なしの客もあまりいない状況である。	
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・年末年始の消費動向は昨年とあまり変わらない。3か月前は賞与等の不安があり、客は消費活動を手控えていたが、一種の落ち着きを取り戻している。しかしながら、必要最低限の消費傾向に変化がみられない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・来客数の減少だけでなく単価も低下しているため、全体として営業収入は減少している。	
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・個人、団体客数共に変動がなく伸びる兆しがない。	
テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・昨年ほどではないが、寒波が厳しく雪の日が続いているため、例年を多少下回る来客数となっている。	
競艇場（職員）	販売量の動き	・初旬の正月レースでの売上は伸びているが、他のレースでは発売額、来客数共に横ばいとなっている。	
美容室（経営者）	競争相手の様子	・月に一度の同業者の集まりでは、来客数の減少などで引き続き景気が悪いという話しか出てこない。	
その他サービス 〔介護サービス〕（介護サービス担当）	お客様の様子	・利用者本人や家族の話から、経済状況が特に変化した様子は見受けられず、経済的に苦しい人も余裕のある人も特別変わった様子はない。	
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客の年収は伸びていないが悪いまま横ばいの状況であるため、消費が大きく落ち込むことはない。	
設計事務所（経営者）	販売量の動き	・全体の建築件数が減少しているなか、特に住宅を含めた新築契約の受注が減少している。	
設計事務所（経営者）	単価の動き	・工事の見積を依頼したが、1年前に組んだ予算を大幅に超える見積金額となっている。取引先は関係先の廃業による人手不足や建材の値上がりを理由に金額を上げているが、収入が増えていない状況で予算を上げることは難しく、今後もこのような状況が続くそうであるため心配である。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・バーゲン時期であるが、売上の伸びが鈍化しており、客の購買意欲が非常に悪い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月9日までの商店街の通行量並びに来客数は良かったが、それ以後は来客数、売上額共に厳しい状況である。
	一般小売店 〔靴〕（経営者）	販売量の動き	・隣町のアウトレットモールや大型ショッピングモールの開店の影響で、初売り後は来客数と売上が減少している。
	一般小売店 〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年同月比で100%を超えているものの、昨年は記録的な大雪による低下傾向にあったため比較にはならない。やはり客のムードは悪く、財布のひもが固いのが現状である。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・近くにアウトレットパーク等がオープンした影響で厳しい売上状況が続いている。それぞれの店舗にもよるが、約7割の店舗で前年同月の売上げを下回っており、70%近くまで販売量が減少した厳しい店舗もあり、全体でも80%程度の販売量となっている。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・来客数調査の結果からも、別の商業集積地がある地域からの集客は更に減少しており、歯止めがかかっていない。駐車場料金の問題もあり滞留時間も短く、目的だけ済ませて帰る客が多い。
	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・12月に同じ商圏内に2つの大型商業施設が新規オープンしたため、来客数が前年から5～6%減少している。特に土日の減少が大きく、売上にも大きな影響が出ている。
	スーパー（販売担当）	来客数の動き	・寒い時期でもあり、特売日でも客の出足が悪く、その後も客足に伸びがない。

コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数は減少していないが、一部の商品においては前年割れを起こしているものがある。	
コンビニ（副地域ブロック長）	競争相手の様子	・コンビニの競合店出店が増加しており、既存店売上に影響を与えている。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・同業者との話では各店とも全体の雰囲気低迷していると感じている。また客の流れは様々であるが、全体的に購買力が低くなっている。	
衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・初売りは来客数が多かったが、バーゲン時期に入り激減している。バーゲンで安く買いたい気持ちはあるが、必要ない物は買わない傾向がある。	
家電量販店（店長）	来客数の動き	・初売りで多少来客数は増えたものの、冬物商材の動きもほぼ止まり、来客数も3か月前と比べ減少しており景気は悪くなっている。	
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・小売も卸売も前年を下回る数字である。雪が降り冬商品がもっと売れても良いはずだが、実際は売行きが鈍くなっている。せっかく雪が降っても景気が悪いため、冬山に遊びにも行かない傾向にある。	
その他専門店〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・正月明けに毎年冬物バーゲンを行うが、昨年よりも来客数が減少している。高齢の客は欲しい物があっても我慢している様子が見える。	
その他小売店〔ショッピングセンター〕（営業担当）	販売量の動き	・近年慢性化が続く冬物セールの前倒し化と長期化により、1月セールのインパクトが薄れてきている。さらに、気温の低下時期が遅かったこともあり、12月に需要が集中したことで冬物衣料の実需も低下している。	
一般レストラン（エリア担当）	単価の動き	・新年宴会の客単価が大幅に低下するとともに、ランチタイムも客単価が低下している。	
一般レストラン（外食事業担当）	お客様の様子	・家族連れや夜遅い時間帯の若者の来客数が減少している。	
スナック（経営者）	お客様の様子	・客との会話では来店回数の減少など景気の悪い話しか出てこない。	
その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	お客様の様子	・年末年始でも客の買上点数は増加していない。通常時の消費が伸びていない上に、長期休暇でも客の財布のひもは固くなっている。	
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・忘年会がホテルから安価な居酒屋にシフトする傾向にあり、売上が前年と比べ2割ダウンと厳しい状況となっている。	
都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・個人旅行者、一般ビジネス客共に宿泊客数は前年と変わらないが、前年1月の山陰地区は雪害の影響でキャンセル等が多く、例年に比べ減収だったことを考慮すると今年の入込は例年より悪い。	
都市型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・予約状況をみると客の購買力が低下している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・新年会等で夜を中心に乗車率が悪化している。	
タクシー運転手	それ以外	・景気低迷からタクシー台数が減少している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・午前中は高齢者の病院通い、午後以降は出張のサラリーマンと飲食店への客がほとんどだが、昨年と比較すると間違いなく減少している。	
通信会社（社員）	お客様の様子	・予定していた商談が客の状況悪化のため取りやめとなった例がある。	
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・販売不振が続いているうえに、競合他社の販売攻勢がすさまじい。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・年末年始にかけて、前年よりも来客数が若干減少している。一方、来店周期が伸びているため一度の来店ですませてしまう傾向があり、客単価は上昇している。	
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・年度末に向け少しは需要が増える見通しだったにもかかわらず、増加の気配は全くなく減少傾向にある。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客は全体的に抑え気味の注文をしており、極力必要最小限の物だけ購入する動きになっている。	
住宅販売会社（販売担当）	単価の動き	・ガソリン、灯油単価等の燃料費は高止まったままである。また、加工食品等の価格も一時期に上昇した小売価格のままであり、ここ最近では特に生鮮食料品の価格が上昇してきている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月に入り客の来店頻度が極端に減っている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・1月は寒かったため、商店街の客層のうち中高年の客の出足が悪くなっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は雪が多くないが、低温状態が続く外出を控える人が多く売上が減少している。

		一般小売店〔酒 店〕（経営者）	販売量の動き	・家飲みの傾向が強まり飲料店の販売量がかかり落ち込んでいる。また、低価格の商品はスーパーなどで購入されることもあり売上が減少している。
		百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・売上高は前年同月比でマイナスが続いている。
		スーパー（店 長）	競争相手の様子	・ディスカウントの販売促進が強化されてきている。来客数は前年並みで推移しているものの、買い控えが売上に大きく影響してきている。
		スーパー（財務 担当）	来客数の動き	・年始以降節約のため来店頻度が低下しており、来客数が減少し、客単価も低下している。
		コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・新規の出店はないが販売量が減少しているため、既存店の売上が厳しくなっている。
		衣料品専門店 （販売担当）	販売量の動き	・来客数が少なく単価も低い状況となっている。
		家電量販店（店 長）	お客様の様子	・先行き不透明な状況下、客の財布のひもはさらに固くなったままで、商品の販売は難しく修理が多くなってきている。
		その他専門店 〔時計〕（経営 者）	来客数の動き	・客は生活に必要な物以外の購買を控える傾向にある。ファッショントレンドが変化した可能性もあるが、宝飾品の販売落ち込みが特に厳しい。
		その他専門店 〔海産物〕（経 営者）	来客数の動き	・正月明けから観光客が激減している、特に団体客の動きが悪くなっている。
		一般レストラン （経営者）	お客様の様子	・消費金額が非常に低下している。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・例年1月、2月は全体の来客数等は落ち込むが、食事のみの来客数も減少している。また、予約も単価が低いものに集中している。
企業 動向 関連	良く なっている	－	－	－
	やや良く なっている	輸送業（支店 長）	受注量や販売量 の動き	・取引者数が増加し平均単価が上昇している。
	変わらない	食料品製造業 （総務担当）	受注量や販売量 の動き	・計画時ほどの伸びがない状況で推移している。
		食料品製造業 （総務担当）	受注量や販売量 の動き	・定番、特売の受注の数量に変化がみえない。
		化学工業（総務 担当）	受注価格や販売 価格の動き	・円高により輸出品の収益力が低下している。
		窯業・土石製品 製造業（総務経 理担当）	受注量や販売量 の動き	・鉄鋼向けの先行納入等の年末年始対策の影響があるものの、生産は各地の焼却炉向けの受注が重なり高水準を維持している。
		鉄鋼業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・1～3月の販売数量と工場の生産量は、昨年秋の想定に比べて下回っているうえに、販売単価も想定以上に値下げ要請が厳しくなっている。また、客の活動水準も低調なままで、今後好転する話もほとんど聞かれない。
		非鉄金属製造業 （経理担当）	受注量や販売量 の動き	・エコカー関連が好調で電子向けが調整中の基調は変わっていない。ただし、エコカーの売れ行き好調さは景気が悪くはないことを示している。
		電気機械器具製 造業（総務担 当）	受注価格や販売 価格の動き	・円高と消費税上げの影響で出足が悪くなっており、様子見を懸念している。
		輸送用機械器具 製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・自動車関係の受注が安定している。
		建設業（総務担 当）	受注量や販売量 の動き	・依然として大型物件の予定が難しい上に、予定される物件も着手が遅れる場合がある。
		輸送業（業務担 当）	それ以外	・受注した業務が2月に延期したため、今月は厳しい状況となるが、全体的にはあまり変化はない。
		金融業（営業担 当）	取引先の様子	・当地における船舶関連、漁具に関連する企業の一部では東北の復興需要にかかる受注増の話も聞いている。また、観光ホテル業でここ数年減少傾向にあった宿泊客が、昨年10月の国体以降回復してきており、足元も堅調な状況との話も出ている。ただし、景気回復を実感するレベルではなく、多くの企業は依然として物が売れず、低単価での販売を余儀なくされている状況であり、3か月前と比較しても景気はおおむね横ばいの水準にある。

やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・3か月前と比較すると、水揚げ数量で230トンの増加、水揚げ金額は約4,000万円の減少となっている。単月の水揚げ数量は前年と比べ92.3%で202トンの減少、水揚げ金額も82.1%で3,990万円の減少となっている。
	木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の季節要因もあるが、国内外の不安感、不透明感の影響もあり景気はやや悪くなっている。
	化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・当社製品の主原料である苛性ソーダが、大手メーカーの工場火災により量的に厳しい状況となっている。当初仕入れ価格高騰が懸念されたが、受注量の減少により調達に影響はなくなっている。また、価格についても現在のところ値上げの打診もきていない。
	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・工作機械製造業界の得意先からの受注半減が主な要因で、今月から受注量が減少しており、7～12月の平均値に比べ30%減少する見込みである。
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・円高の影響により、特に北米並びに欧州向けの自社製品の輸出で採算が取れず厳しい状況である。
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・相変わらずコストダウンの依頼が継続しており、国内生産の現状がますます厳しくなっている。また、円高にもかかわらず原油や消費材の仕入値が低下しないことも厳しさを増す要因となっている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工事費は少なくなり、ほとんど大手が受注しており、損益分岐点を大きく下回る受注しかない。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・主要取引先の企業再編に伴い、大幅な規模縮小の影響が生じる。
	通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の客全般に通信費のコスト削減を原資として、情報機器関連への設備投資に関する案件が増えており、通信関連については低価格帯での商談が主体となっている。
	金融業（自動車担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・円高による輸出採算の悪化と欧州の信用不安の問題などから世界的に自動車の販売が低迷している。合理化によるコスト削減も限界に近く、減収減益が継続している。
	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先では経費節減や人員カット等様々な対応で乗り切ろうと模索しており、受注が減少している。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・例年1月は他の月に比べて低調だが、今年はその傾向が小売りの販売業関連を中心に顕著である。また、製造業は期待していた受注量が獲得できず、売上高を落としているところが複数ある。
悪くなっている	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州の信用不安がいよいよ抜き差しならない状況となり、国内も消費税増税など消費マインド萎縮の話ばかりで景気が悪い。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量が悪化し、価格も低下している。
	輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・主要客からの受注が前回内示に比べ大幅に減少している。
雇用関連	良くなっている	—	—
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者） 職業安定所（職員）	求人数の動き 求職者数の動き
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・求人総数としては横ばいが続いており、医療福祉系職種の求人依頼は好調であるが、製造関連職種の求人は低調である。求職者の動きも例年に比べて鈍く、マッチングに苦慮している。
	人材派遣会社（支社長）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・業種によってバラツキがあるが、全体の求人数に大きな変動がない。
	求人情報誌制作会社（サイト運営担当）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・採用者数の動きに変化がみられない。

	求人情報誌製作会社（支社長）	採用者数の動き	・中途正社員の求人広告の伸び率に変化がない。
	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・飲食業、宿泊業等のサービス業からの大幅増員を目的とする求人依頼が増えてきている。また、一部では自動車関連メーカーからの引き合いも増加しており、情勢は徐々に好転している。
	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求人数の動き	・大きな求人需要が見込まれない状況が続くとともに、今春卒業の採用状況も低下している。
	その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	求人数の動き	・食品製造業で誘致企業の稼働に伴う大量求人があり製造業全体で大幅増加したこと、小売業で新規オープンに伴う求人が複数あったことなどから、求人は全体で2割の大幅な増加となっている。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（広告担当）	求職者数の動き	・欧州を始めとした世界経済の不安要素も重なり、各企業とも先行きにかかなりの不安を持っている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・これまで大学新卒者を少ない年でも2人採用を確実に続けていた従業員100人規模の地場企業が、売上減少と60歳定年社員の再雇用などで、新卒採用の余力がないとの理由から、初めて大卒採用を見送っている。また地元私立大学の今春卒業予定者に、就職ではなくはり灸・整骨の専門学校に入るケースが出始めていると大学事務局が驚いている。
悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・テレフォンサービスの求人募集の意欲が高くなっている。さらに公共工事の受注があり、建設作業員の意欲も高くなっている。一方、製造業では円高の影響による輸出が低調で、求人募集の意欲が低下している。